

## 第21回災害廃棄物対策中国ブロック協議会 議事録

日 時：令和6年2月28日（水）13時30分～15時30分

場 所：国際ファミリープラザ 会議室 B

オンライン会議システム併用

議 事：

- (1) 令和5年度の協議会調査検討事項の報告
- (2) 令和5年度の災害廃棄物処理に関する人材育成に向けた取組
- (3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について

報告事項：

令和6年能登半島地震における災害廃棄物対策について

### 1 開会

協議会の冒頭に、令和6年能登半島地震で亡くなられた方への黙祷を行った。  
その後、環境省 所長より開会の挨拶が行われた。

### 2 あいさつ

### 3 議事

(座長)

議事の「(1) 令和5年度の協議会調査検討事項の報告」について、事務局より説明をお願いします。

#### (1) 令和5年度の協議会調査検討事項の報告

議事の「(1) 令和5年度の協議会調査検討事項の報告」について、事務局より資料1-1、1-2の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料1-1、1-2説明・省略)

(座長)

ただいま説明いただいた資料1-1、資料1-2について、ご質問等があればお願いします。

**(委員)**

他ブロックとの連携についてコメントしたい。ブロックの境界に近くにある自治体が被災した際、ブロックを超えた連携協力が必要になる場合がある。その際、ブロック内で情報をどのように共有するのか、応援・受援を決める際の情報整理、環境事務所への連絡方法が重要となる。各ブロックの環境事務所間での協議を早急に進め、自治体はその調整内容に則って対応を進めることになるだろう。

**(事務局 環境省)**

ご指摘のとおりである。ブロックを超えた連携をした際のブロック内での情報伝達方法、また、連携を踏まえた応援・受援への活かし方については、まだ議論ができていないので、今後検討したい。また、ブロック間連携においては、地方環境事務所間での調整も重要になるので、環境省本省での議論の状況を見ながら、地方環境事務所間での協議を進めていきたい。

**(岡山県)**

現実的な災害において、処理先は処理主体ベースで決まる流れという認識である。ブロック間連携においては、環境事務所を挟んだ自治体同士の連携になるが、実態としては処理事業者が決まらないと連携体制が整わない。このあたりのことは、行動計画とどう絡むのか、どう整理すべきか考え方をご教示いただきたい。

**(事務局 MURC)**

今回は、他自治体の一般廃棄物処理施設における処理を前提に検討している。実際、一般廃棄物処理施設では処理できない災害廃棄物もある。御指摘の通り、産業廃棄物処理施設も含めて処理施設が決まってから処理が進むという面が実態に近い。

**(岡山県)**

あくまで処理先の確保が大前提で、市町村ベースでの調整の際のフローが示されたと理解した。

広域輸送について、港湾などでの管理対応について、災害廃棄物は条例で取扱いができないという規定がある。どの自治体も同様かと思うが、県内部でも調整できない。この点について、環境省から国土交通省への調整は検討されているのか。

**(事務局 MURC)**

港湾を使用する際、発生者である自治体から港湾の管理者（自治体）に利用可能性を相談している。港湾運送事業者が利用する前に自治体間で調整を行い、その時に国交省や環境省のサポートが必要になれば、発生者である自治体から国に連絡すること

となると考えられる。港が使えないということになると別の手段を考えることとなる。

**(岡山県)**

差し支えなければ、ヒアリング先をご教示いただきたい。

**(事務局 MURC)**

熊本地震時の状況をヒアリングしており、自治体は熊本市、船舶輸送事業者は当時の運輸会社にヒアリング調査を実施している。その際に、港湾の利用が難しいときは発生者である自治体に連絡し、当該自治体が調整したと聞いている。

**(副座長)**

資料1-1の最後の項目に関連した話題提供をする。「訓練の実施は天候に左右されることがある」との協議会での指摘があったが、今年度、富山県でサッカーなどの練習ができる大きな屋内型スポーツ施設で仮置場に関する実地訓練を実施した。当日、実際に雨が降ったが、問題なく実施できた。ただし、実物ごみは使えないとして、段ボールごみを使用した。全国で初めての事例だと思う。

**(委員)**

資料1-2の9ページ③地域特性に応じた優先的に選択する輸送方法の検討について、まとめ方と活用の仕方について確認したい。先日の幹事会の中間報告の中で、中国ブロックを山間部と臨海部（日本海側、瀬戸内海側）の3つのエリアに分けて、優先的に選択する輸送方法と、それを成果として自治体が活用しやすいようとりまとめると聞いていた。③では、鉄道施設と港湾施設との所要時間を地域ごとに計測をし、60分を超える地域を災害時は2時間、日帰りで往復できる圏域として設定したという説明は理解した。ここでは、どの手段が広域輸送に適しているかを、自治体が自ら整理検討することが望ましいという結論となっている。3エリアでの区分による整理はよい方法だと思ったが、実際はそうはなっていない点が残念である。60分を超える地域があったという情報は大事な情報である。そういった地域に対する対応が必要だと思うが、これについて見解があればお伺いしたい。

重要港湾やコンテナ取扱駅の情報調査の成果について、自治体が活用しやすいよう検討されていることがあれば教えていただきたい。

**(事務局 環境省)**

令和6年能登半島地震の際、通常車で2時間のところ7~8時間かかったという状況があった。今回は自治体名については公表を控えた。

各自治体に置いてはある程度把握されていると考えるため、令和6年能登半島地震

を踏まえ、廃棄物処理計画を見直す時に、個別にご相談いただければ対応できるようにしたい。

(座長)

他に意見は無いようなので、次の議題に移る。

議事の「(2) 令和5年度の災害廃棄物処理に関する人材育成に向けた取組」について、事務局より説明をお願いします。

**(2) 令和5年度の災害廃棄物処理に関する人材育成に向けた取組**

議事の「(2) 令和5年度の災害廃棄物処理に関する人材育成に向けた取組」について、事務局より資料2の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料2説明(動画上映含む)・省略)

(座長)

ありがとうございます。

ただいまの説明について、何か質問があればお願いします。

「第4 災害廃棄物の仮置場設置運営訓練の実施及び廃棄物処理施設見学会の開催」に記載のとおり、今治市クリーンセンターで見学会が行われた。施設の特徴やストック状況、普段から避難スペースを確保しており住民の活動に開放していることを、追記いただきたい。

(座長)

他に意見は無いようなので、次の議題に移る。

では続いて、「(3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について」説明をお願いします。

**(3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について**

議事の「(3) 次年度以降の四国ブロック協議会での取組に係る課題について」、事務局より資料3の説明が行われた。説明の後、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 環境省)

(資料3説明・省略)

資料に記載はないが、広域輸送については、地域特性に応じた取り組みの在り方を検討し、自治体の方が活用しやすいように整理していきたいと考えている。

(座長)

何かご意見はあるか。ご質問等あればお願いします。

(委員)

先般の令和6年能登半島地震では、現場に近づけないという、これまでにない課題が見つかった。中国ブロックでも同様な事象が発生する可能性がある。石川県の災害対応は現在進行中なので、対応を踏まえた課題の洗い出しはまだ先になるだろう。ブロック内で甚大な被害があったところはどう対処するかについては、可能な限り検討しておくべきである。

(事務局 環境省)

今回のような規模の大きな地震への対応については検討が必要である。災害廃棄物処理を考える上で、アクセスについては大きな課題である。能登半島地震の事例を踏まえて、次年度以降の検討事項に反映したい。

(委員)

初動に関しては一斉対応だが、対策のペースは自治体によってスピードが変わっていく。フェーズに応じて適宜、援助方法を見直すなど、継続的な対応が必要になると思う。

(副座長)

「2.より実態に即した訓練の検討」について、今年度は仮置場設置運営訓練と図上訓練を実施した。特に図上訓練においては、自治体間の広域処理にポイントを絞ったことから、深掘りが出来て新たな気づきを得ることができたことで、ブロック行動計画の見直しにつながったという説明だった。非常に有意義な訓練だったと思う。今後は、たとえば、産廃協会との連携や自衛隊との連携、ボランティア団体との連携など、テーマ、ポイントを絞った訓練ができればよい。ご検討いただきたい。

「3.廃棄物処理施設に関する調査検討」では、今回は自治体、組合が所管する一般廃棄物処理施設に限っての調査だったが、一般廃棄物処理の許可を得た産廃施設、リサイクル可能施設などに範囲を拡大した調査検討が必要である。産廃施設については、産廃協会が会員に対し様々な調査を実施しているの、各協会に協力いただきながら協議会の中で調査検討が出来れば、より現実的な流れがイメージできると思う。

(事務局 環境省)

図上訓練については、今後、テーマを絞って、尚且つ深掘りして進められるような

訓練の在り方を検討したい。

また、廃棄物処理施設のデータについては、既に調査されたものや本協議会における調査検討結果の蓄積もある。それらをうまく活用しながら効率的な調査の在り方を考えつつ、協力主体の負担にならないような形で、最新情報を把握したい。

#### (委員)

「3.廃棄物処理施設に関する調査検討」について、参考意見を2点述べる。

「令和5年度の調査結果を踏まえ、災害発生時に広域処理に活用可能と考えられる施設に係る情報の更新等を図る。」との記載がある。具体的には、図上訓練で使用された施設リストの情報を更新することだと思う。たとえば、焼却施設のリストをみると、受け入れ条件として寸法制限が記載されていれば、業者が持ち込む破砕機のサイズを事前に確認ができる。非常に重要な情報なので、見直しの時には、こういった大事な情報について再確認していただきたい。

一般廃棄物処理施設に係る情報収集及び一覧表の作成等については、今年度は対象としていない施設に対し必要性含め検討すると記載されている。リストには、受入可能量の他に処理余力をまとめている。県下の全施設について処理余力のデータがあると全体像がつかめるので、今年度対象外の施設についてもデータがあった方がよいと考える。

リストデータは電子化されていると思うので、各県が自県のデータを共有し、発災時に県下全自治体の受入可能量を調査する時に自治体ごとに切り取って活用できるようにすれば有効だと思う。

#### (事務局 環境省)

今後リストをどのように更新していくか、どこまで拡張するかは大変重要な視点なので、活用方法を含め検討を継続していきたい。

#### (座長)

それでは、議事は以上となる。進行を事務局にお返りする。

#### (事務局 MURC)

座長ありがとうございました。

それでは「4 報告事項」に進む。「令和6年能登半島地震における災害廃棄物対策について」について、報告をお願いする。

#### 4 報告事項

##### 令和6年能登半島地震における災害廃棄物対策について

「令和6年能登半島地震における災害廃棄物対策について」について、中国四国地方環境事務所より資料4の説明が行われた。

(事務局 環境省)

(資料4説明・省略)

#### 5 閉会

(事務局 MURC)

ご報告ありがとうございました。

本日は、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございました。

本日の意見をふまえて資料を修正し、最終的には報告書にまとめる。報告書の内容の最終確認については座長に一任とさせて頂いてよろしいか。

(異議なし)

ありがとうございます。

事務局からお願いがある。本日の協議会の議事録は2～3日後にメールをさせて頂く予定である。その後、修正がある場合は3月5日(火)までに連絡をお願いする。

以上で、第21回災害廃棄物対策中国ブロック協議会を閉会する。オンライン会議の方も通信を終了する。

本日は長時間ありがとうございました。

以上